



21日、一色町公民館カーネーションホールで行われた第15回一色高等学校和太鼓部「いっしき」演奏会での一場面

待つてました！心中で叫ぶ 再び法被に袖

大声は出せないので心の中で叫んだ。「待つてました！」。

第15回一色高等学校和太鼓部「いっしき」演奏会が

21日、一色町公民館カーネ

ーションホールで行われた。

主催は一色高等学校和太鼓部「いっしき」、後援は

西尾市教委、一色高等学校同窓会、本社ら。

昨年の第14回演奏会は中止となつており、演奏する側、聴く側と、誰もが2年分の月日を埋める演奏会になつた。

この日は午前の部、午後の部と、一日2回のステージが行われた。(なお、本紙は「午前の部」を取材)

座席などについては、隣りとの間隔を一席空ける形のほか、一ステージ240席に客席を大幅に縮小したり、舞台と客席最前列との距離を空けた。

また、ホール扉の開扉も定期的に行なうなど「新しい生活様式」を柔軟に取り入れた演奏会では、再び和太鼓部の法被に神を通したみ

なさんが、「海祭り四季に生きる」とはじめ、「愛郷伝統と創造」、「NO・

(3年生含む)やO・B・O G18人の熱演に対し、来場者も声援の代わりに、強くそして大きな拍手を何度も送つた。

さらに演奏会では、高須病院＝一色町赤羽の高須克彌理事長から地元の赤羽木遣太鼓保存会へ寄贈され、同太鼓保存会を経て、同校和太鼓部と、スポーツクラブいっしきの両団体が譲り受けた和太鼓一台も演奏中に使用。その縁で高須理事長も客席中央で十代の力強いステージを鑑賞した。

多数の応援を受けた3年生の鈴木碧生さんは「今日は雨でしたが、みなさんは太陽でした」と、ステージ上でお札を述べた。

このほか、この日は和太鼓部にオリジナル曲を提供

したり、技術指導に当たるプロ和太鼓奏者の山田純平さんが公演中、次のように話して今後の活動に向けてリズムを作つた。(以下要旨)

「技術指導という形で和太鼓部に関わらせていただいている。年々実力を付けて2年前には県大会で特別賞を受賞するという全国レベルの和太鼓部の一歩手前まで來ていたが、コロナが

襲つて来て演奏機会が全く